

山梨日日新聞

3/20 木

県中西部

降水確率(%)	80	80	50	最高	9
6~12時	80	80	50	最低	5
12~18時	80	80	50	最高	9
18~24時	50	50	50	最低	5
24時	50	50	50	最高	9

県東部五湖	降水確率(%)	80	80	60	最高	9
	6~12時	80	80	60	最低	1
	12~18時	80	80	60	最高	9
	18~24時	60	60	60	最低	1
	24時	60	60	60	最高	9

詳細は2面に

医療法人 聖光会
甲府城南病院
日本医療機能評価機構認定病院

内科・循環器内科
脳神経外科
リハビリテーション科
心臓血管外科
人工透析
人間ドック

〒400-8515
甲府市北口2-6-10
電話(055)231-3000
FAX 231-3111 事業 231-3121 伝真 231-3131
231-3136 出版 231-3105 販売 231-3132

http://www.kofujin.or.jp
総合在宅支援センターひかり

発行所
山梨日日新聞社
〒400-8515
甲府市北口2-6-10
電話(055)231-3000
FAX 231-3111 事業 231-3121 伝真 231-3131
231-3136 出版 231-3105 販売 231-3132

©山梨日日新聞社NO.4年

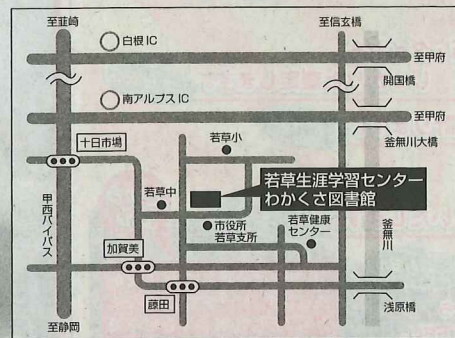
「甲斐の国 水災・減災セミナー」開催

入場無料!
事前申込不要!
聴講をご希望される方は、
当日受付時間までに
会場にお越しください。

日時 平成26年3月29日(土)
13:30~16:15(受付13:00)

会場 「南アルプス市 わかくさホール」
若草生涯学習センター内(南アルプス市寺部)

主催:甲府河川国道事務所
共催:山梨県、南アルプス市、山梨大学・国際流域環境研究センター
後援:山梨日日新聞社、山梨放送



近年、地球温暖化が原因と考えられる大型台風や局所的な集中豪雨が懸念され、洪水被害の危険性が高まっています。甲府盆地に残る災害との戦いの歴史、この教訓を現代に生かしましょう。

第二部 セミナー1(30分)

堤の原風景



~南アルプス市の人々の命を守った堤防のはなし~
講師 田中 大輔氏
南アルプス市教育委員会 文化財課副主幹
南アルプス市の歴史は、水との闘いの歴史だったことがわかっています。なかでも、戦国時代以降、金無川の本流が、西へ西へと移り変わり、押し寄せるようになった川の水に、どのように立ち向かってきたのか...。地域を守る堤防はどのようなもので、どのようにその堤防を守り、地域を守ってきたのか...。地域に残された古文書や絵図から読み解きます。

セミナー2(30分)

霞堤による減災のための保全



講師 末次 忠司氏
山梨大学大学院 医学工学総合研究所附属 国際流域環境センター 教授
水害は堤防等により防ぐ必要があるが、破堤のような大水害を回避するには堤防以外の手段も考えておかねばならない。南アルプス市にある霞堤は上流で破堤氾濫した時に、下流の地域を守るすぐれた減災機能を有しており、この機能を生かしていく方法を考えていくことが重要である。



南アルプス市内に残る伝統的治水工法「霞堤」
霞堤...堤防のある区間に開口部を設け、その下流側の堤防を上流の堤防と二重になるようにした不連続な堤防です。その効果としては、上流部で堤防が決壊した時の氾濫水を本川に戻す役割を持っています。

第一部 基調講演(80分)

山梨の風土に刻された災害の宿命



~災害の世紀・防災・減災を考える~
講師 竹林 征三氏
工学博士、富士常葉大学 名誉教授、山口大学 時間学研究所 客員教授
〈風土工学とは・環境防災学とは〉
東日本大震災以降、過去になかった諸々の災害が次々起こり、日本列島は巨大災害の世紀に突入したと言われている。日本列島は九つの災害の宿命を背っている。山梨は四周山に囲まれた地であり、九つの災害の宿命が凝縮した地である。この地の先人は宿命と闘いこの地を切り開き誇り高い甲斐の国をつくった。風土には先人の知恵と労苦が各所に刻されている。先人の知恵の深さに敬意を表し、学び子孫に伝えていかなければならない。

お問い合わせ 国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所計画課 甲府市緑が丘1-10-1 TEL055-254-6571

県中西部

降水確率(%)	70
6~12時	70
12~18時	20
18~24時	最高
最低	10
最高	15
東京都五湖	

降水確率(%)	70
6~12時	70
12~18時	20
18~24時	最高
最低	8
最高	15
詳細は2面に	

水害の予防 歴史に学ぶ

南アで減災セミナー

甲府河川国道事務所は29日、南アルプス市若草生涯学習センターで、甲府盆地を襲った水害の歴史などを紹介する「甲斐の国 水災・減災セミナー」を開いた。

住民ら約70人が参加。山口大時間学研究所の竹林征三客員教授が基調講演を行い、笛吹川が氾濫した明治40年の大水害を解説。被害の様子や笛吹市内の仏閣に水が到達したことを示す史跡が残っていることを説明した。南アルプス市の堤防の移り変わりについても語った。

竹林客員教授は「ゲリラ豪雨のような異常気象は、どこでも起る可能性がある。次の洪水を減災するためにも、過去の被害や先人の知恵を教訓にするべきだ」と話した。

新報山梨

3/30 日

発行所
山梨日日新聞社

〒400-8515
甲府市北口2-6-10
電話(055)231-3000
事業 231-3111 印刷 231-3131
FAX 231-3111 出版 231-0505 販売 231-3132
©山梨日日新聞社2014年

NISA

少額投資非課税制度

は

山梨中銀

よれあいまがが

山梨中央銀行